

Y14-27

日赤図書室協議会による電子ジャーナル・コンソーシアムの取組み

広島赤十字・原爆病院 医事課 図書室¹⁾、
姫路赤十字病院²⁾、松山赤十字病院³⁾、
鳥取赤十字病院⁴⁾、高槻赤十字病院⁵⁾

○^{しげさだ}繁定 ^{しげの}繁乃¹⁾、岡本 美春²⁾、美濃 彩加³⁾、篠原由香里⁴⁾、
上成 弥生⁵⁾

【はじめに】2014年契約の電子ジャーナルについて、出版社と協議し赤十字独自のコンソーシアム（共同体）購入を行ったので報告をする。

【目的】外国雑誌は毎年値上がり確実であり、図書予算の中での購入が難しくなっていることから、代理店を介さず、代理店の業務を会員が分担し、代理店手数料分を価格に反映させることが目的である。

【方法】1)コンソーシアム委員会設置。2)5月に出版社と相談し、コンソーシアム提案書を作成。3)8月：提案書を全赤十字施設に発送、合わせてトライアル案内も同封し、ホームページ上にトライアル画面を設置。4)10月：申込締切り後、集計し、出版社に見積を依頼。5)見積書を確認し、価格報告書を申込み施設に発送。6)支払い、契約は各施設と出版社で行う。

【結果】11提案の参加があり、合計で39施設、合計約140,000,000円の申込みとなった。

【おわりに】代理店を通さず、出版社との直接販売のため、ドル払いに戸惑った施設もあるようだが、1度経験すれば翌年からはスムーズであり、海外の出版社からの直接販売であるため、国内消費税は不要であることも大きなメリットの一つであると考えます。また従来、代理店からの情報は代理店訪問回数の減少と共に得る情報も少なく、出版社直販にしたことで、情報も直ぐに入手できる。初年は全赤十字施設を対象にしたが、2014年の提案は、日赤図書室協議会会員限定とし、全赤十字施設が会員となるよう期待したい。

Y14-28

図書室の利便性向上を目指して ～バーコードを用いた図書管理システムの作成～

徳島赤十字病院 事務部医療情報課広報学術係¹⁾、
情報システム係²⁾、事務副部長³⁾、事務部長⁴⁾

○^い稲井 ^{しんいち}真一¹⁾、大岸真壽美¹⁾、古高 実希¹⁾、小島 涼子²⁾、
吉川 和彦³⁾、真鍋 文雄⁴⁾

【はじめに】当院の図書室は書籍・雑誌を合わせて約33000冊を所蔵しているが、貸出・返却処理及び、月別貸出件数などの各種集計を手作業で行っている。そこでバーコード管理のプログラムを作成し、図書業務の円滑化を図った。新しい図書管理システムの運用を開始し約1年半が経過した現状と、今後の展望について報告する。

【方法】Excel（VBA）を用いてバーコードを用いた図書の登録・貸出返却・集計を行えるプログラムを作成した。また、10桁のバーコードを生成し、すべての図書に貼付することとした。

【結果】2011年3月からプログラム作成に取組んだ結果、図書業務（雑誌の登録・貸出返却処理・集計にかかる時間）も30%短縮された。貸出伝票に10桁のバーコードのみを記入してもらうことで、伝票の記入ミスが大幅に減少した。また電子カルテ端末で新刊図書の案内、蔵書の検索ができるようになったことや、貸出方法も簡略化されたことから利用者の利便性が上がった。

【考察】依然として貸出伝票の記入は手書きであるため、係員が貸出・返却処理を手作業で行っている。バーコード貼付率を上げていくことを前提に、今後は貸出伝票を廃止し、係員の不在時も利用者自身が図書の貸出・返却処理が可能ないようにプログラムを改良し、図書業務の簡略化と職員満足度の向上につなげていきたい。さらに電子カルテ端末を使った、図書の貸出状況が参照できる仕組みを構築するなど、図書利用の促進にも取り組みたいと考えている。